

さいたまけんりつだいがく  
埼玉県立大学

## 1 講座名・定員など

### (1) 授業科目

No.	科目名	曜日	時限 (注 1)	受講期間	受講回数	授業形式	定員
①	公的扶助論	火	4 時限	4/14～7/21	14	対面 /オンライン	対面・オンライン共に若干名
②	司法福祉論	火	4 時限	4/14～7/28	15	対面	若干名
③	宗教学	水	1 時限	4/8～7/29	15	対面	5 名
④	家族看護学	水	3 時限	4/8～6/3	7	対面	若干名
⑤	高齢者福祉論	水	4 時限	4/8～7/29	15	対面	5 名
⑥	保育内容「健康」の指導法	木	3 時限	4/9～7/23	15	対面	5 名
⑦	ソーシャルワーク概論 I	木	5 時限	4/9～7/23	15	対面	若干名

(注 1) 時限・授業時間について

1 時限： 9：00～10：30

2 時限： 10：40～12：10

3 時限： 13：00～14：30

4 時限： 14：40～16：10

5 時限： 16：20～17：50

- ※ 科目、曜日、授業時間等は都合により変更になる可能性がございます。
- ※ 授業形式において、①公的扶助論は、対面授業とオンライン授業の選択が可能です。②～⑦の科目については、原則、対面授業となります。  
なお、対面授業の科目においても、オンライン授業（オンデマンド授業を含む）となることもあります。
- ※ すべての科目にてインターネット授業支援システム「Webclass」（注 2）を利用し、授業に関する連絡（資料配布・課題のお知らせ・レポート提出等）を行う場合があります。
- ※ ③宗教学について  
地域社会の宗教文化を学ぶことを目的とした科目です。個別の宗教団体や宗教紛争を解説する内容ではありませんのでご了承ください。
- ※ ④家族看護学について  
授業資料を「Webclass」に掲載します。ノートパソコンやタブレットなどをご持参してください。

- ※ ⑥保育内容「健康」の指導法について  
運動実技の回があります。その際は、体育館シューズ（上履き）・動きやすい服装（ジャージ）が必要となります。
- ※ ⑦ソーシャルワーク概論Ⅰについて  
授業中に「Webclass」を使用します。授業中の課題への解答、資料閲覧に必要ですでの、ノートパソコンやタブレットなどインターネットにアクセスできるものをご持参してください。
- ※ ノートパソコンやタブレットなどの基本的な操作についてのお問い合わせはお受けできません。
- ※ 受講者の成績評価はいたしませんので、学期末試験はありません。

(注2) Webclassとは、本学で導入しているeラーニングシステム(学習支援システム)です。授業の教材・資料の閲覧やアンケート・レポート提出等に利用します。

## (2) 場所

埼玉県立大学

〒343-8540 越谷市三野宮 820 番地

東武スカイツリーライン「せんげん台駅」下車

西口よりバス：5分 徒歩：約20分

※ 自家用車、バイク等による通学は許可できません。

※ 公共交通機関、自転車等をご利用ください。



## 2 受講料等

### (1) 受講料

- ・科目ごとに受講料が必要となります。  
※受講回数により受講料が異なります。

8回相当：6,000円、15回相当：10,000円

- ・受講料は受講決定後に振込となります。

※振込手数料は別途かかります。

No.	科目名	受講料	備考 (受講回数)
①	公的扶助論	10,000円	14
②	司法福祉論	10,000円	15
③	宗教学	10,000円	15
④	家族看護学	6,000円	7
⑤	高齢者福祉論	10,000円	15
⑥	保育内容「健康」の指導法	10,000円	15
⑦	ソーシャルワーク概論 I	10,000円	15

### (2) その他

教科書等の教材を自己負担によりご用意いただく場合があります。

## 3 受講の申込み

### (1) 申込期限 令和8年2月28日（土）

### (2) 申込方法

次の応募フォーム、二次元コードよりお申込みください。

<https://business.form-mailer.jp/fms/e568aa21325016>



お申込み完了後（送信後）に受付完了の自動返信メールが届きます。

応募フォーム以外（電話・FAX等）のお申込みは受け付けておりません。

受付完了メールが届かない、応募についての問い合わせ等ございましたら、お問合せ先までご連絡ください。

### (3) お問合せ先

埼玉県立大学 地域連携センター

E-Mail [edec@spu.ac.jp](mailto:edec@spu.ac.jp)

TEL 048-973-4114

### (4) 選抜方法

定員を超える申込みがあった場合は、抽選により受講者を決定します。

受講の可否、受講決定科目は、申込期限以降（3月中旬までに）、申込者全員にお知らせします。

## (5) その他

- 申し込み後、都合により受講できなくなった場合は3月27日（金）までにご連絡ください。ただし、一旦納入された受講料につきましては、原則としてお返しすることはできませんので、あらかじめご了承ください。
- 中止または受講方法の変更により受講できなくなった場合に限り受講料をお返しいたします。
- 天候や社会情勢等により、受講方法が変更となる場合があります。  
変更が生じた場合、受講者へ連絡いたします。  
対面授業を予定している科目でも、Zoom等のオンライン授業（オンデマンド受講を含む）となる可能性もございます。  
オンライン授業（オンデマンド受講を含む）の場合、大学ではなくご自宅等において受講いただくことになります。パソコン、タブレットなどのインターネットに接続できる端末・インターネット通信環境をご準備ください。  
ご自宅等で受講いただく場合の通信料は、受講者本人のご負担となります。
- 本学では、病院等への実習を控えた学生もいることから、状況により感染防止対策等をお願いすることがございます。ご協力をお願いいたします。

## 4 各授業科目の概要等及び担当教員

公的扶助論 (大岡 華子 准教授)	<p><b>【概要】</b></p> <p>公的扶助は、貧困状態に陥った人々の最低限度の生活を保障する制度であり、社会保障制度の重要な一つの分野として、社会保険や社会福祉とともに重要な役割を果たしている。わが国の場合には、生活保護制度がこれに該当する。生活保護制度は、その目的の憲法25条に規定する理念に基づくものであり、生存権を保障することが明記されている。</p> <p>授業では、貧困・低所得者問題とは何か、公的扶助制度の歴史、生活保護制度の仕組みや動向・課題などについて講義する。また、低所得者に対する支援制度（生活福祉資金等）等についても紹介する。</p> <p><b>【ねらい】</b></p> <p>①社会保障制度における公的扶助制度の役割を理解できている。            ②現代の貧困問題の背景・状況を理解できている。            ③生活保護制度の概要と課題を理解できている。            ④生活福祉資金・生活困窮者自立支援法等低所得者に対する支援制度を理解できている。</p>
司法福祉論 (相良 翔 准教授)	<p><b>【概要】</b></p> <p>近年、非行・犯罪への対応が社会的に着目され、課題となりつつあります。その課題解決に向けて、社会福祉に対する期待も高まっています。では、社会福祉は犯罪・非行への対応にどのような影響をもたらしているのでしょうか。そのことについて、法律・制度・現状・これまでの研究に関する講義を通じて、みなさんと一緒に考えていきます。</p> <p><b>【ねらい】</b></p> <p>犯罪・非行への対応について学び、社会福祉が担う役割や機能について考察する。</p>

宗教学 (浅川 泰宏 教授)	<p><b>【概要】</b></p> <p>超人間的存在に関わる私たちの感性や思考が織りなす文化が宗教です。講義では、聖地、巡礼、山岳信仰、死者供養などの事例を扱いながら、日本の宗教文化を主な対象として、個人や地域社会と信仰世界の結びつきを考えます。</p> <p>本講義は対面授業を原則（一部オンデマンド授業）とし、グループワーク、身近な地域でのフィールドワーク、学修成果の共有など、学生が主体的に活動する形式を取り入れて実施します。自由・活発に思考を働かせながら、知性を鍛えていただきます。</p> <p>※注記：地域社会の宗教文化を学ぶことを目的とした科目です。個別の宗教団体や宗教紛争を解説する内容ではありません。</p> <p><b>【ねらい】</b></p> <p>①さまざま人の営みに触れることで、「人間」に興味と敬意を持つ姿勢を養う。②学修を通して、自分のアイデアや考えを掘り起こし、形にする能力を養う。③多様な宗教文化の発見を通して、様々な価値が共生する社会像を探求する能力を養う。</p>
家族看護学 (善生 まり子 教授)	<p><b>【概要】</b></p> <p>家族を1つの単位として、相互作用する存在として捉える。ケアの対象である家族を理解するための家族看護理論を学び、家族がもっているセルフケア機能を高めるための看護職者の役割と支援姿勢を理解する。</p> <p>現在の家族の特徴や機能に関する理解を深めるとともに、家族のライフサイクルの段階に応じた発達課題や健康問題に対する支援のあり方を学ぶ。また、家族支援に必要なアセスメントについて学習し、家族看護の実際について事例を通して学習する。</p> <p><b>【ねらい】</b></p> <p>家族看護理論をもとに現代の家族の役割・機能・課題について学ぶことを通して、家族看護の立場から専門職者の援助について理解を深めることができる。また、保健・医療・福祉の連携と統合をもとにした「家族ケア」について理解を深めることができます。</p>
高齢者福祉論 (小川 孔美 准教授)	<p><b>【概要】</b></p> <p>総人口が減少するなか、高齢者の増加により高齢化率が上昇を続け、2035年に33.4%で3人に1人、2060年には39.9%に達し、国民の約2.5人に1人が65歳以上の高齢者となる社会の到来が推計されています。この現実をふまえ、今後想定されている様々な課題を正確にとらえ、これからの中社会福祉、制度、政策や人々の生活を支援することについてともに考える必要性に迫られています。</p> <p>本科目では、とりわけ高齢者の身体的・精神的・社会的特徴や生活実態と福祉・介護について理解を深め、わが国における高齢者福祉制度の発展過程を学びます。特に、高齢者への相談援助活動にとって重要な介護保険制度や主な高齢者福祉・介護に係る他の法制度について、(高齢者の)家族を支えるための介護サービス等の支援と関連づけながら学習します。</p> <p><b>【ねらい】</b></p> <p>①高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。②高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。③高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。④高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</p> <p>①から④をふまえ、高齢者の「生活の質」(QOL ; quality of life)向上のために支援を展開できる力を身につけましょう。</p>

保育内容「健康」の 指導法 (五味 葉子 助教)	<p><b>【概要】</b> 保育領域「健康」における、基本的生活習慣の意義の形成と指導法、安全教育の必要性と安全教育の指導法、運動あそびの意義と運動あそびの指導法について学びます。 体を動かす回もあり、その際は、運動ができる服装（ジャージや体育館用シューズ着用）で参加すること。</p> <p><b>【ねらい】</b> 保育内容の領域「健康」は、子どもの健康な体と心を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うという観点でまとめています。授業では、子どもの心身の「健康」について理解し、保育者の役割、基本的な生活習慣、食育、運動あそび、安全教育に関する指導法について学び、自分の言葉での表現することを目指します。</p>
ソーシャルワーク概論 I (保科 寧子 准教授)	<p><b>【概要】</b> ソーシャルワーク・専門的対人援助を行うために必要な基本理念、倫理、支援の考え方を学ぶ。相談援助実践の事例等を用いて、支援の役割および機能、多様な実践のなかの共通課題等を学び、支援を必要とする人々の背景を理解し、基本的な相談援助の在り方を考え、専門的援助者としての視点の涵養をはかる。</p> <p><b>【ねらい】</b> ソーシャルワークの基盤となる理念・価値・倫理の理論を学び、それらがソーシャルワーク実践でどのように生かされているのかを理解する。</p>